校 長 室 だ よ り（No.1）

令和４年４月８日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

令和４年度の丹波市立黒井小学校は、本日２６名の新入生を迎え 187 人でのスタートとなりました。始業式では、各担任、担当等を子どもたちに発表いたしました。あわせまして子どもたちには、今年度、努力してほしい４つのことをお話しました。

人を大切にする子になりましょう。（人間関係の形成にかかる能力）

子どもたちが学校や地域社会で人とのかかわりの中で生活し、学習をしていく上でいちばん基礎となる能力です。今、よく言われているふるさと教育、キャリア教育といちばん関連しています。めまぐるしい勢いで変化し、価値観が多様化する現代社会において、様々な他者を認め、他者と協働していく力が必要です。新しい指導要領で言われている「対話的な学び」にもあたります。音楽・図工の授業などでの多くの友達と共に作品や合唱、合奏などの作品づくりを行い協力して一つのものをつくり上げることなどは、よい経験となります。高学年の児童にとっては、社会性が発達するときでもあり、友達のよさを理解する力（認める力）、他者に働きかける力などを高めていきたいと考えます。

苦手な事にも挑戦する子になりましょう。（自己理解や自己管理に関する力）

この力は自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、たとえ苦手な事であっても、今後の自身の成長のために進んで学ぼう、努力しようとする力です。

前項でも書きましたように変化の激しい社会にあっては、多様な他者との協力や協働が強く求められています。そこでは、自らの思考や感情を「律する力」や自らを「律する力」がますます重要となってきます。体育科などでボール運動などを通して、与えられたポジション等、自己の役割の大切さを理解し、行動することは大変重要な能力です。

こつこつ計画的に努力できる子になりましょう。（課題して対応する力）

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、自身で適切な計画を立ててその課題について考え、解決することができる力です。学校でも教師と子どもたちで学習過程を共有、明確化することにより、自ら学び、課題を解決する主体的な能力の育成を重視しているところです。単に知識や技術を学ぶだけでなく、体験的な学習を通して学んだことを実際の生活の中で生かしたり、法則を自ら発見したりする学習は特に重要であると考えます。これは、将来いろいろな仕事をする上で、課題を発見し、情報を収集し、処理し、解決していくことができる能力の基礎になると考えます。

人のために努力できる子になりましょう。（キャリアプランニング能力）

社会で生活していくために生涯にわたって必要となる能力です。生活科等では、身近な公共施設等を支えてくれている人たちの存在に気付かせて、そのような人たちの活動の一端を理解させることは、社会が人によって支えられているという事実を認識させるための重要な学習です。このような機会を通して、子どもたち自身も将来そうした社会の一員となる存在であることを、実感を伴って理解させています。自らが果たすべき様々な立場や役割を意識させていくことが重要です。生きていくうえでは、自分も「人のために働く」ことが必要になっていくことを認識させたいと考えます。